ま、革子といひしも有るあり、

澀革子　ゑぶかはご、

今世に有る竹のあじろの上を、紙張にして澀引たる物なり、

〔今昔物語十六〕女人仕清水觀音蒙利益語第九

今昔、京ニ父母モ无ク類親モ无クテ、極テ貧シキ一ノ女人有ケリ、略○中男ノ云ク、速ニ行キテ可告シ、但シ著給ヘル衣コソ、極テ見苦シケレト云テ、忽ニ皮子ヲ開テ、清氣ナル衣一重生口袴口取出テ女ニ著セテ、具シテ將行ク、

〔宇治拾遺物語三〕むかし大太郎とて、いみじきぬす人の大將軍ありけり、略○中風の南のすだれをふきあげたるに、すだれのうちに、なにの入たりとはみえねども、皮子のいとかたくうちつまれたるまへに、ふたあきて、きぬなめりとみゆる物、とりちらしてあり、

〔方丈記〕すみかは折々にせばし、其家の有樣、よのつねならず、廣さ纔に方丈、高さは七尺計りなり、略○中北の障子の上に、小さき棚を構へて、黑き皮籠三四合を置、卽和歌、管絃、往生要集ごときの抄物を入たり、

〔七十一番歌合下〕五十三番　右　皮籠造

月見つゝいたづらふしのなきまゝによの程造る竹かはご哉

逢事のゑゆくせぬ柿のさねかはごゑぶ〳〵にだに人のこぬかな

〔毛吹草三〕肥後　皮籠

〔下學集下器財〕葛籠

〔和爾雅五器用〕衣籠又云葛籠

〔貞丈雜記八調度〕一つゞらと云はつゞら櫃也、つゞらと云草のつるにて作る也、つゞら藤の事也、つ

葛籠